

学年別授業研究会 5年部会提案

☆川崎市小学校教育研究会 研究主題

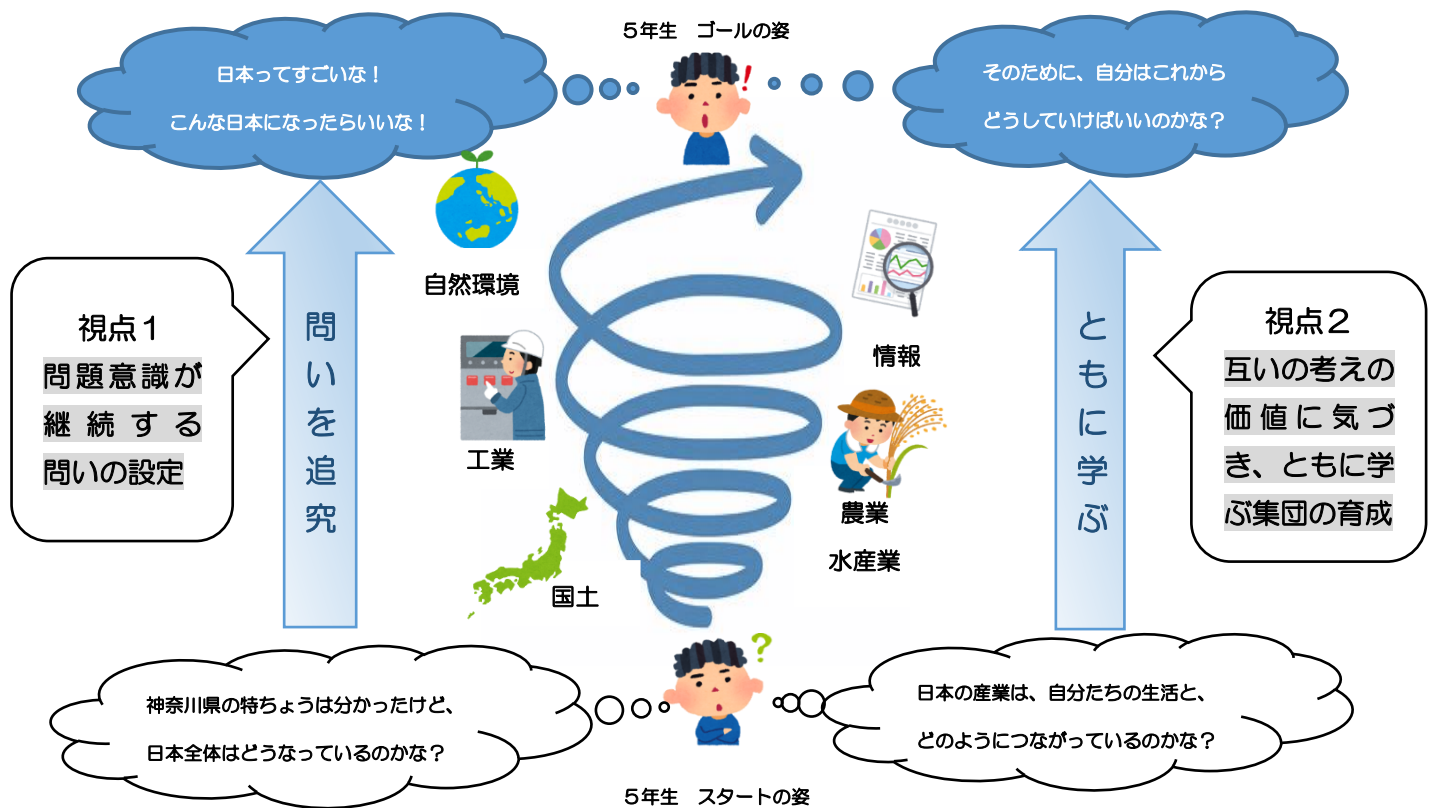
ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

☆今年度の5年部会が目指す子どもの姿

問いを追究し、ともに学び、よりよい社会や自分の在り方を考えようとする子

☆研究の重点

深い学びの実現に向けた一人一人が生きる社会科学習



社会的事象を個別の事象として理解したり、一つの事象に対する知識を単に増やしたりするだけでは、深い学びが実現したとは言えない。社会的な見方・考え方をくり返し働かせ、問題を追究したり解決したりする活動を通して、社会的事象の意味や特色を含んだ汎用的な知識（概念的な知識）を獲得する。このように概念的な知識の獲得と活用をくり返すことで、深い学びの実現につながっていく。そのために、5年部会では、特に学習過程が大切であると考え、学習過程を3つのステップに分けた。

魅力的な教材と出会い、「知りたい」「調べたい」と**動き出す姿**、新たな考えに気づいたり自分の考えをよりよくしようとしたりして**学び続ける姿**、学んだことを活用して次の問題解決に向かう**次に生かす姿**。（右図参照）この3つの姿が、1時間の授業、1つの単元、単元と単元で見られるようなつながりのある学習過程こそが、深い学びの実現には必要不可欠である。3つのステップ中でも、特に**学び続ける姿**が大切であると考えた。学び続ける姿は、動き出す姿にも次に生かす姿にもつながり、学びのサイクルを回す原動力になる。このような姿の実現に向けて、以下のような研究の視点を設定した。



学び続ける姿

新たな考えに気づいたり、自分の考えをよりよくしようとしたりする姿

視点1 問題解決の意識が継続する 問いの設定

社会的な事象と出会い、学習を進める中で、子どもが問題解決に向けて意識をいかに持ち続けるかが大切である。そのために、子どもの意識が継続するような問いを設定する。

例えば、見通しをもって学び続けることができる問い、一つの立場を調べただけでは解決できない問い、今の自分の考えではまだ足りないと自覚できるような問い、これからも考え続けたいと思えるような問いなどである。「解決したい!」「考えたい!」と動き出した子どもの思いが継続するような、そして自分の考えをよりよく続けようと思うような問いを、単元を通して設定する。

本単元においては、導入で川崎市の大気汚染という身近でインパクトのある教材と出合った子どもたちが動き出す。単元前半では、一人一人が視点を設けて公害に対する取り組みを調べ、調べたことを単元中盤に共有する。本時では、社会のしくみを理解した上で、その考えをもう一度問い直すような事実を提示する。そうすることで、「今の自分の考えではまだ足りない」「もう少し考えてみよう」と問題解決の意識が継続し、より明確に社会的事象を見られるようになる知識を獲得できると考えた。また、単元終盤では、現在では公害はもう既に解決したと思っている子どもの思考をゆさぶるような事実から問いを設定する。「これからも考え続けていかなければならない」と、次の小単元「自然災害」「森林」の学習につながるようにしたい。そして、これからの実生活にも目を向けて、自分やよりよい社会の在り方についても問い続けられるようにしたい。

<本単元を通した子どもの問題解決の意識>



「なぜだろう?」

「解決したい! 考えたい!」



「調べたことをもとに考えたら、社会のしくみが分かったよ」

今までの考えを問い直す問い



「今の自分の考えでは足りないな」



「もう少し考えてみよう」

解決したと思った思考をゆさぶる問い



「これからも考えていかなくちゃ!」

次の小単元へ

視点2 互いの考えの価値に気づき、ともに学ぶ集団の育成

自分一人で学びが完結してしまっては、新たな考えに気づくことに限界がある。自分や友達の考えを互いに認め合うことで、深い学びに迫ることができる。この場合における考えを認め合うとは、単に「その考え、いいね」と相手を励ましたり、自分と異なる考えを受け入れたりする姿のみを指しているのではない。既習の知識を関連づけて考えている姿を相互に価値づけし合うことを目指す。そうすることで、獲得する概念的知識がより確かなものとなり、活用しやすくなると考えた。

そのためには、授業中の発言やふりかえりの記述の中で、既習の知識を関連づけて考えている姿や考えようとしている姿を教師が見とり、意図的に価値づけ、それを全体に広げることが大切である。例えば、「日本の工業の発展には技術力だけでなく、消費者のニーズや環境への配慮も大切だ。」と個々の知識を結びつけて説明する姿や「農業と同じように水産業にも課題があるのではないかな。」と既習を生かして他の事象にも当てはめて問題を解決しようとする姿、「今までの学習でも消費者や生産者などの様々な立場の人が協力してきたから、公害もそうなのではないかな。」と多角的に考えている姿などである。そのような姿をくり返し教師が価値づけることで、相互に価値づける姿が広がっていくと考えた。本単元においても、上記のような姿を積極的に価値づけ、全体に広げていくことで、概念的知識を活用できるような環境を子どもとともに作っていききたい。